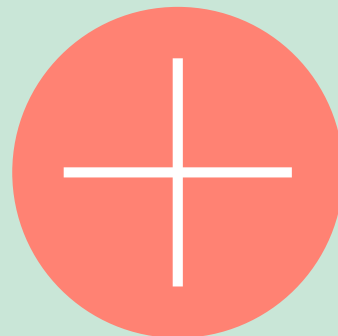


社会科

中学社会

NAVI

ナビプラス



1人1台端末を使った授業実践

社会科における主体的・対話的で深い学びの授業づくりと
ICTを活用した学習活動の工夫

宮崎県西都市立三納中学校 福嶋 章

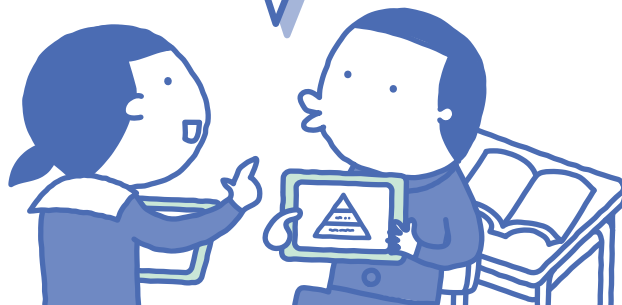
社会科におけるICT機器の効果的な活用を
模索してみた!

宮崎県日南市立東郷中学校 春田 一樹

1人1台端末を活用して協働的な学び・個別
最適な学びを実現

宮崎県小林市立西小林中学校 早田 泰大

授業で効果的に
活用するには?



日文のWebサイト

日文 🔍



社会科における主体的・対話的で深い学びの授業づくりとICTを活用した学習活動の工夫

宮崎県西都市立三納中学校 福嶋 章

01 社会の授業における生徒用タブレットの活用

授業での活用としては、家庭学習や授業の初めに基礎的・基本的な知識を獲得するためのドリル学習ツールとしての使用と、授業場面における学習補助ツールの2パターンである。授業場面においては、基本的に資料配付と意見交換のために使用している。探究活動の際は情報を調べるツールとして活用しているが、特

別な使用ではなく、タブレット＝学習用具（ツール）という意識である。

生徒用タブレットを効果的に授業場面で活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現につながると思う。以下、自身の授業実践について紹介していく。

02 中学校2年生（地理的分野）「九州地方」

自然環境を中核に九州地方の単元を学習した。この単元の中で、沖縄県の地域的特色について資料をもとに考察した実践を紹介する。学習の工夫としては、導

入段階で生徒たちの沖縄に関する知識との対比から、「雨の多いはずの沖縄県でなぜ水不足が起こるのだろう」と課題解決学習がスタートする。

指導案

- 1：単元名 九州地方～沖縄県の水不足の謎に迫る～
 2：本時の目標 南西諸島の気候と沖縄県の地域的特色について資料をもとに考察することができる。(思考力、判断力、表現力等)

3：本時の展開

	学習活動および学習内容	学習形態	指導上の留意点	評価	資料・準備
導入	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの復習をする。 1問1答クイズ形式 本時の学習課題に迫る。 沖縄の気候について 沖縄の家について 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な生徒も答えやすい問いにする。 ★生徒用タブレットに資料を送信し、子どもたちが疑問をもつよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末 資料1 雨温図 資料2 台風の通過(図) 資料3 沖縄の家(写真)
	学習課題 なぜ沖縄県は雨が多いのに水不足になるのか。				
展開	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題の予想をする。 一定の時期しか降らない 蒸発する 降った雨が海に流れ出る 資料をもとに検証する。 【個人】→【ペア】 ※資料は異なるものを用意し、2人の情報を関連付けて学習課題の答えを導く。 	一斉 個人 ↓ グループ	<ul style="list-style-type: none"> 予想なので多くの意見を出させる。 個人で資料読み取りを行い、ペアで情報交換を行う。2人の情報を関連させ、学習課題の答えを考察させる。 グループで意見を出し合い、ホワイトボードに意見をまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対する自分の考えを表現できる。(ノート・観察) 南西諸島の気候と沖縄県の地域的特色について資料をもとに考察することができる。(ノート・机間指導) 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末 資料4 沖縄の地層(図) 資料5 沖縄の標高(地形図) 資料6 沖縄の川と宮崎の川(図)
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> グループの意見を紹介する。 本時のまとめをする。 ふり返りを行う。 	一斉 個人 グループ	<ul style="list-style-type: none"> 発表側は大きな声で分かりやすく、聞く側は相手に体を向け発表を聞かせる。 自分の言葉で表現させる。 本時のふり返りをペアで行う。 	

03 中学校2年生(歴史的分野)「産業革命と資本主義」

イギリスの産業革命における資本主義の発達について、資料をもとに資本主義の光と影を考察する。生徒たちは平均寿命が短かった事実を知り、「なぜイギリスの平均寿命は短いのだろうか」という課題を解決していく。

図1 資料の配布と読み取り



①主体的な学習の工夫

どの単元においてもペア学習を採用している。資料についてはそれぞれ異なるものを配付し、自分の担当の資料の読み取りができないと、学習課題の答えが導き出せない。それぞれの資料を読み取ることに責任をもたせることで主体的な学習を促すことにつながる。

②対話的な学習の工夫

異なる資料の読み取りを行ったあとに情報を伝達する時間を設定している。その際、タブレットに書き込みながら相手にわかりやすく伝えることが求められる。資料の説明をお互いに行った後、学習課題に対する答えを2人で議論し、記述する。

指導案

- 1：単元名 欧米における近代化の進展～産業革命の影響とは～
- 2：本時の目標 産業革命の影響について、資料をもとに考察することができる。(思考力、判断力、表現力等)

3：本時の展開

	学習活動および学習内容	学習形態	指導上の留意点	評価	資料・準備
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 前時までの復習をする。 ● 当時のイギリスの写真や資料から学習課題を設定する。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ● 苦手な生徒も答えやすい問いにする。 ● 当時のイギリスと現代社会を対比できるように資料を提示する。 ● 資料から得た気づきを生かして学習課題を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ● タブレット端末 資料1 鉄道の開通 (写真) 資料2 イギリスの平均寿命 (グラフ)
	学習課題 なぜイギリスの平均寿命は短いのだろうか。				
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習課題について予想する。 ● 資料をもとに検証する。【個人読み取り→情報の共有】 ● グループごとに学習課題に対する答えを紹介する。 	個人 グループ	<ul style="list-style-type: none"> ● 必ず一つ以上の考えをワークシートに記述するよう説明する。 ● まず個人で資料を読み取らせ、その後情報を交換する場を設定する。 ● 悩んでいる生徒には読み取りの視点を与え、自分で読み取ることができるよう支援する。 ● ジグソー法を用い、自分の力で読み取りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業革命の影響について資料をもとに考察することができる。(机間指導・観察・ワークシート) 	<ul style="list-style-type: none"> ● タブレット端末 ● ワークシート 資料3 人口の増加 (グラフ)、交通網の発達 (写真) 資料4 「生活環境と伝染病」 資料5 「児童労働と労働条件」 資料6 「イギリスの工業の発達と貿易」 ● マーカー ● ホワイトボード
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時のまとめをする。 ● ふり返りを行う。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● 書く力を付けるために、まとめの時間を十分にとる。 		

04 中学校3年生（公民的分野）「効率と公正」

対立の起きた状況で、より良い解決法について考え、「みんなが納得のいく解決策を考える時に必要な視点」について自分なりの考えを見出す。

をもとに意見を述べるができるようになる。特にICT機器でのプレゼンテーションは表現力の向上につながり、「深い学び」の実現に大きく結びつくと考えられる。

●自身の考えを表現する

これらの活動を通して生徒たちは自分の言葉で根拠

指導案

- 1：単元名 より良い解決法は何？～現代社会の見方や考え方～
- 2：本時の目標 コンビニやテーマパークの並び方のイラストをもとに、みんなが納得できる解決策について、効率と公正の視点をもとに考察できる。(思考力、判断力、表現力等)

3：本時の展開

	学習活動および学習内容	学習形態	指導上の留意点	評価	資料・準備
導入	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの復習をする。 コンビニのレジの並び方のイラストから気づいたことを発表する。 並んだ順に空いたレジに入れる。 レジごとに並ぶ。 テーマパークの並び方のイラストをもとに学習課題を設定する。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 「対立」と「合意」に関する問いにする。 1列に並んで空いたレジに入ることが「効率」と「公正」であることに気づかせる。 ★イラストを生徒一人一人のタブレット端末に送信し、拡大させることで細部の情報に気付かせる。 「効率」と「公正」が合意をもたらす視点であることを説明する。 コンビニのレジの並び方の違いに注目させ、座席に空席があることに気付かせる。 		<ul style="list-style-type: none"> モニター パソコン タブレット端末 資料1 コンビニのイラスト ワークシート 掲示物用カード「対立」「合意」「効率」「公正」 資料2 テーマパークのイラスト
	学習課題 みんなが納得のいく解決策を考える時に必要なことは何だろう。				
展開	<ul style="list-style-type: none"> テーマパークの並び方についてみんなが納得のいく解決策を考える。 【個人思考】 グループで1つにまとめる。 【集団思考】 解決策を発表する。 1人乗り専用入り口のイラストを見て、気付いたことを発表する。 	個人 ↓ グループ	<ul style="list-style-type: none"> 解決策を考える際に、「効率」と「公正」の視点から考察するように助言する。 ★個人のタブレットにテーマパークの写真を送信し、書き込みながら考察させる。 ★個人思考の後にグループで協議させる。ホワイトボード役、タブレット役、発表役を決めておく。 ★発表の際は事前にタブレットに書き込んでおく。 各班の発表内容を「効率」と「公正」の視点から評価させる。 評価の結果と理由を紹介させ、最も評価の高かった班の意見を「効率」と「公正」の視点から確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなが納得できる解決策について、効率と公正の視点をもとに考察できる。(観察・WS) 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末 ワークシート マーカー ホワイトボード
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 ふり返りを行う。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> 書く力を付けるために、まとめの時間を十分にとる。 ★まとめを教師に送信し発表させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ワークシート タブレット端末

図2 自分の意見をプレゼンする



05 おわりに

社会科の会や研修会において、タブレット端末の活用について、議論することが多くある。どのように活用すべきなのか社会科の先生方と今後も意見交流を深めたいところである。

社会科におけるICT機器の 効果的な活用を模索してみた！

宮崎県日南市立東郷中学校 春田 一樹

01 はじめに

新型コロナウイルス感染症に関する全国一斉休校から、だいぶ時間が経ち、ICTの活用に関して教師も生徒も随分慣れてきたように思える。GIGAスクール構想のスタート当初、当時勤務していた学校では、積極的に活用してみようと興味・意欲が高い教員と、使用に関する不安から活用に後ろ向きな教員と大きく2つに分かれた。これは全国的にも同じ現象が起きたのではないかな。

現実問題として教育現場からすると、タブレット端末が現場に届くスピードと使用に関する研修や準備

(心の準備) が合わないままスタートしたような感覚がある。それでも、色々なツールを用いて、生徒と共に試行錯誤しながら行った授業が懐かしい。

私自身は特別ICT機器に強い方ではないが、授業などで試してみたいことがいくつかあった。どうせ使用するなら、思い切った活用を目指さなければ宝の持ち腐れである。

そこで、教科指導にICTを取り入れ、チャレンジして見えてきたことや意外な発見を今回紹介できればと考えている。

02 定期テストでのICTの活用

定期テストの際、知識・技能の観点をはかる問いにおいて、導入1年目からタブレット端末を使用してみた。

使用したのは株式会社LoiLoのロイロノート・スクールである。テスト機能を用いて出題する為、一問一答の三択で出題することにした。

解答や正答率、正誤、未回答の有無まで即時出して

くれるこの機能は、正確且つ指導者側の授業改善につながるデータの収集に役立つ。

ただ、正答を選択することで「理解」と言えるのかは、議論の余地はあると思う。

書けるに越したことはないが、学習障害(LD)の生徒でもこのような形式なら答えられる。**特別支援の視点でも活用の仕方は広がるのではないだろうか。**

第1回定期テスト知識・技能問題 回答者数 138

自動採点 ON OFF 回答を締め切る

集計結果 作成者のみ表示 回答者名 作成者のみ表示 ...

(1) 1894年に日本と戦争をしたのはどこか? * 配点 1

ロシア

清

アメリカ

この画面は教師側の画面である。自動採点をONにすると即時採点してくれる。集計結果や回答者名は「作成者のみ表示」「全員に表示」など切り替えが可能。

問いに対して、三択の答えを用意。タップして解答する。

1人1台端末を活用して 協働的な学び・個別最適な学びを実現

宮崎県小林市立西小林中学校 早田 泰大

01 未来社会で必要な力の育成

日々の授業に求められる要素を挙げると、「主体的・対話的で深い学び」、タブレット端末の活用など、数多くある。しかし、私たちが忘れてはならないのは、「何のために授業をするのか」という目的である。学習指導要領やGIGAスクール構想が目指すのは、将来の「Society 5.0」や「超スマート社会」と呼ばれる予測困難な時代を生きていくために必要とされる力を育成することだ。

生徒に求められる力は、「知識」に加えて、「自ら課題を見つけ、それを解決する力」や「他者と協働し、自ら考え抜く力」が必要な時代へと移行している。つまり私たちの授業の在り方も、教師が一斉授業によって「教え込む」教育から、学習者が主体となって「学びとる」教育へと移行しなければならない。

しかし、一斉授業から生徒主体の学びへ転換するの

は簡単なことではない。実際に授業のどの場面で具現化していくのか、と考えると難しい問題である。

そこで、「協働的な学び」と「個別最適な学び」を一体的に充実させることが、生徒主体の学びの実現に結びつくのではないかと考えた。そして、この学びの過程において、1人1台端末を活用することは、「生きる力」を育むための重要なツールとなるはずだ。

以下の実践紹介では、意図的・計画的にICTの活用、「協働的な学び」、「個別最適な学び」に取り組んだ事例を紹介する。この事例は、学習活動端末支援Webシステム「SKYMENU」を活用した実践である。各学校の支援ソフトとは異なる機能もあるだろうが、紹介した事例が、本記事を読んでいただいている皆様の学校の支援ソフトで代用できないか、考えていただけると幸いである。

02 実践事例

場面1 個人目標を立て、 振り返る

図1は普通の授業において必ず生徒が記入する学習カードである。生徒は、学習内容や学習態度についての目標を自ら決め、できたことやできなかったことを振り返る。

端末を活用することで、教師が添削したものを効率的に添削・返却することができる。これを日々繰り返すと、生徒たちはよりよい学び方を主体的に選択・判断し、行動に移していく。

図1 ウェブ上で添削・返却した学習カード

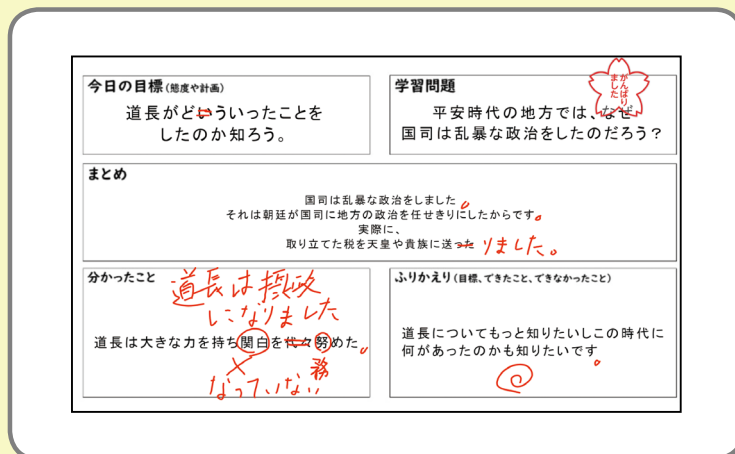
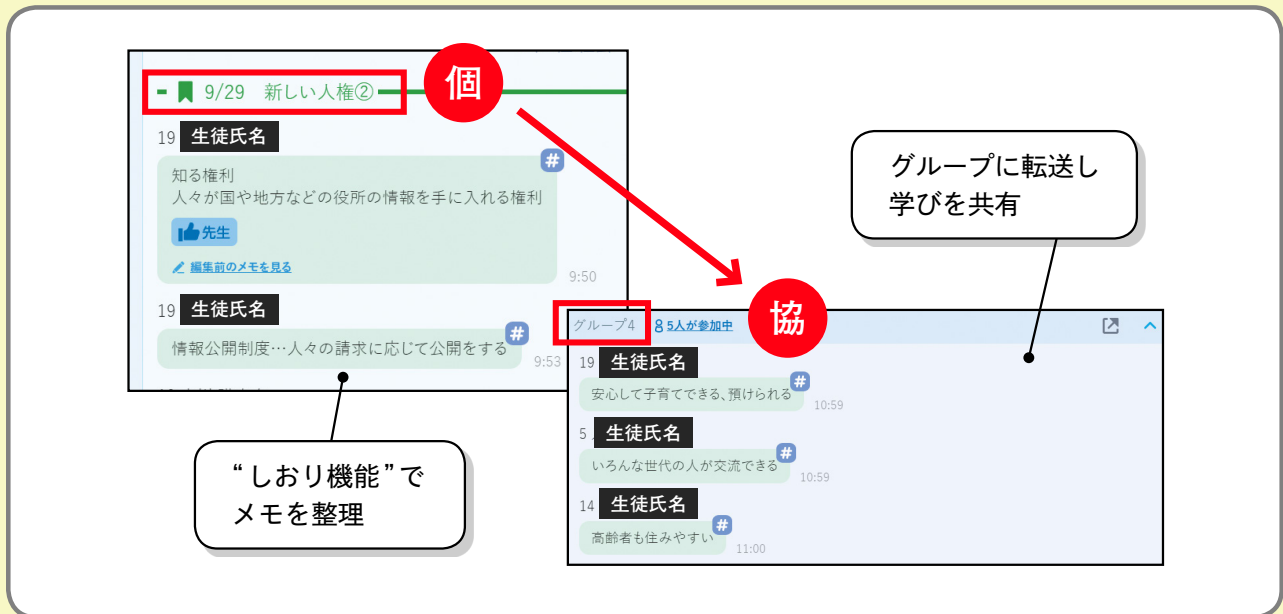


図2 ウェブ上で生徒が作成したメモとグループでの共有のようす



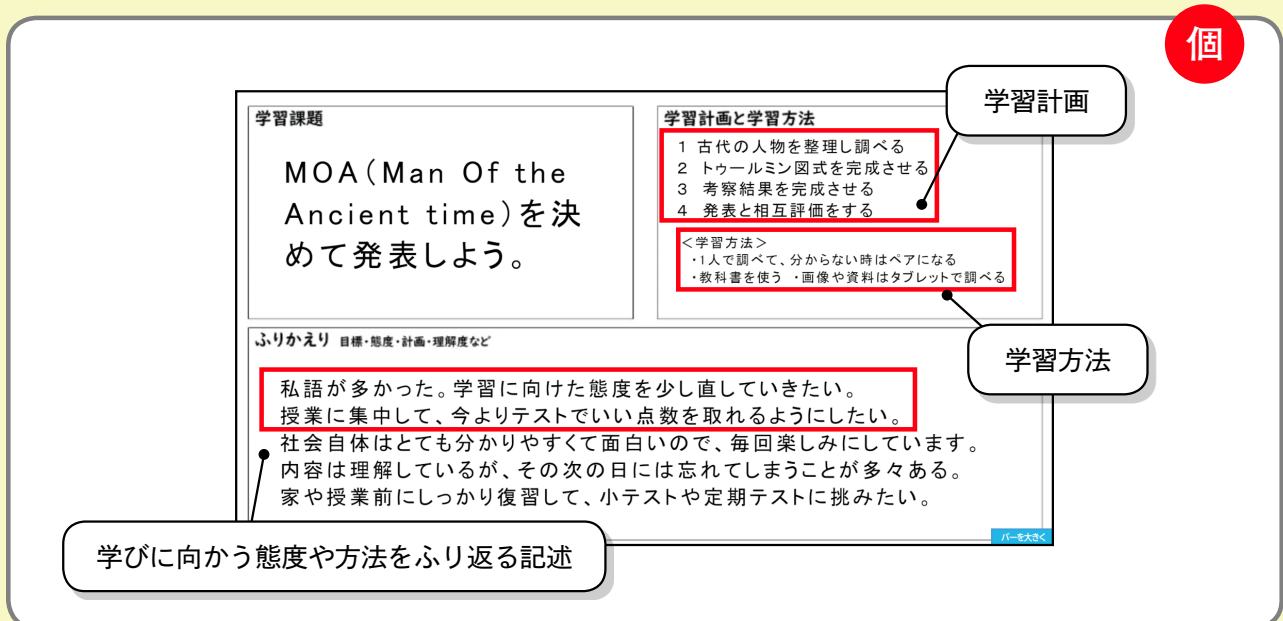
場面2 学びを蓄積し活用する

生徒たちは、“板書を写す”という作業をすることがほぼ無くなった。調べ学習や話し合い活動で気付いたこと、教師の話を聞いて大事だと思ったこと、など個々の判断で自由にウェブ上に入力（SKYMENU“気づきメモ”機能）していく（図2）。入力されたメモは、グループ機能で班や学級全体で共有できる。また、一度メモした文章は、コピー＆ペーストできるため、まとめ学習の資料作成など、別場面でも活用できる。

場面3 単元の学びを計画し、方法を選択する

生徒の興味・関心に基づき、特性や個性を育成する「学習の個性化」の第一歩は、学習者に学習活動の順序や調査方法を選択・決定できるようにすることだ。図3は、歴史的分野「古代のまとめ」の学習計画とふりかえりである。生徒は、単元内で「いつ」「誰を」「どうやって」調べるのか、自ら選択し決定する。歴史上の人物の誰を選んでも、単元のねらいが達成できるよう、教師が課題の設定を行う。

図3 生徒が作成した単元計画とふりかえり



場面4 個と協働を繰り返す中で活用する

生徒は、自分の立てた計画に沿って学習を進める。しかし、「個別最適な学び」が「放置された学び」にならないように心がけている。

タブレット端末で得られる情報は、大量かつ幅広く、生徒全員が適切に情報収集できるとは限らない。どのように活用するか生徒自身に選択・決定させると同時に、正しい方向へ学びを調整する機会を設定する。例えば、教師が「あなたが〇〇と考える根拠となる資料をタブレット端末で調べてはどう？」と促したり、単元のねらいが達成できるよう、教師が意図的に発問を行い、グループで話し合わせたりしている。個と協働を繰り返す中で、端末を目的に合った形で活用することが大切である。

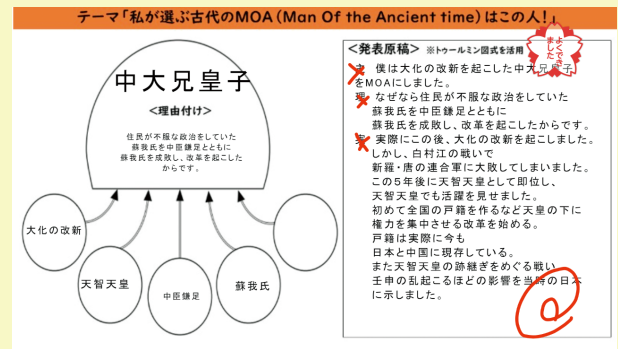
図4 タブレット端末を使用した授業のようす



場面5 パフォーマンス課題に取り組む

タブレット端末を学習で使用する大きなメリットは、生徒にとっても教師にとっても“効率が良い”ことに尽きる。書き直すことに対するハードルが下がるため、生徒は自分の考えを論理的に表現しようと、粘り強く取り組む様子が見え始めた。課題へ取り組む姿勢が、紙で提出させた時よりも格段に前向きになったと感じる。

図5 生徒が作成した古代学習のパフォーマンス課題の成果物



場面6 発表と相互評価をする

タブレット端末を活用して作成した成果物を、生徒が順番に発表し相互評価する。タブレット端末を活用することで、瞬時に評価を共有することが可能である。また、他者の評価も可視化されるため、評価の仕方についても視野を広げることができる。耳で情報を理解することが苦手な生徒にとっても効果的だ。発表を終えた生徒は、すぐに自分の発表の評価を見ることができ、自信をつけたり、改善点を把握したりすることができる。

図6 発表と相互評価のしくみ



場面7 成果物を共有し、学びを深める

個人で取り組んだ提出物を生徒同士で共有できる設定にしておけば、他者の考えを見たり意見交換したりしながら、自分の考えを深めることができる。例えば、結論付けた自分の考えを、「協働的な学び」の後に再考させることで、よりよいものを創造することが期待できる。

課題とともにルーブリック評価を生徒に提示することを、多くの先生が実践されていると思う。その際に、自己評価をさせ、教師に評価をウェブ上で返却し、ふり返る機会を設定している。

図8の生徒は「Bを目指す」とはじめに記入したが、実際はA評価に向けて取り組んだことが見て取れる。一方で、自己評価と教師による評価が一致しない時もある。自分自身を客観的に自己評価する力を、生徒による相互評価活動も含め、タブレット端末を活用することで長期的に育みたいと考えている。

図7 提出物の共有

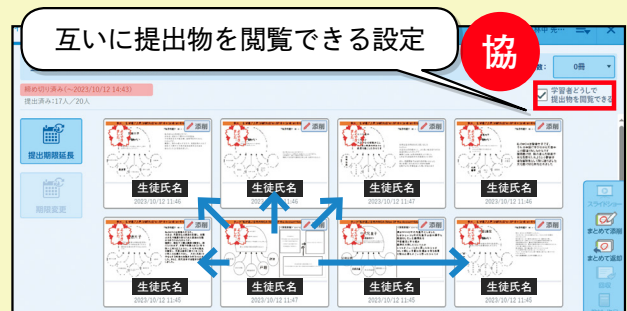


図8 自己評価シート

評価	評価基準	個
A	①MOAを、「政治」「国際関係」「文化」の中から2つ以上を相互に関連づけながら、理由付けをまとめている。	X
	②古代の特色を、前(人類誕生前)や後(中世)の時代と比較して、まとめている。	O
B	①人物や時代について、正しく理解している。(内容の理解) ②結論 理由 根拠がつながっており、矛盾がない。(論理的説明)	O
	③ツールミン図式を活用して発表原稿をまとめている。(根拠に基づいた説明)	O
C	評価Bを、2つ以上満たしていない。	X

03 おわりに

タブレット端末の活用によって、生徒主体の活動が増え、学びに向かう力や、自分で考え課題を解決する力の育成につながり、発表が苦手な生徒も表現する機会があるため、「協働的な学び」に参加できる。しかし、タブレット端末はあくまで手段であるため、授業のね

らいを達成するための問いはどうあればよいか、個と協働をどのように展開していくのかなど、従来の社会科でも議論されてきたことを吟味していく必要がある。今後も「何のために授業をするのか」という目的を忘れることなく、よりよい授業を創造したい。

Q&A

Q：全ての学習活動をタブレット端末で行っていますか？

A：タブレット端末を活用するのは、その効果が期待できる活動のみです。授業中は、小テストとやり直しは紙で行ったり、問題集に取り組ませたりして、知識を確実に定着させるための活動も大事にしています。

Q：タブレット端末の活用に自信がありませんが、どうすればよいでしょうか？

A：今年度の異動に伴い、前任校と全く異なる端末機能に私自身困惑しました。そこで「先生に教えて欲しい」と生徒に話すと、私が目指す学習活動に結び付く機能を教えてくれました。「教師が教える」のではなく「生徒と共に授業を創り、共に成長する」というスタンスでタブレット端末の活用を進めていってはどうか。

Q：個々に学習を委ねると学習内容や理解に差が生まれてしまいませんか？

A：授業や単元のねらいが達成されるよう、教師が発問を精選したり、まとめは教師主導で行ったりするなどして、生徒全員が同じゴールにたどり着くようにしています。



社会科 NAVI+ 中学社会⑬

日文教育資料 [中学校社会]
令和5年(2023年)11月7日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪府大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33705

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州本社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690